

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「知・徳・体」のバランスがとれた生徒を育み「絆」を大切にする学校

- 1 わかる喜びや達成感を味わわせ、社会を生き抜くための「豊かな学び」(「知」)を定着させ、進路実現を図る。
- 2 やさしさを基盤に厳しく粘り強い生徒指導を展開し、規範意識を高めるとともに基本的な生活習慣の確立に努め、豊かな人間性(「徳」)を醸成する。
- 3 健康で安全な社会生活が営めるよう、健全な心身(「体」)をはぐくむ。
- 4 生徒と生徒、生徒と教職員、教職員と保護者、そして地域や中学校との連携を強化(「絆」)する。

2 中期的目標

社会の一員として自信を持って生きていける自立した人づくり

- 1 社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進
 - (1) 新学習指導要領を踏まえ、わかる授業を展開し、社会で生き抜くことのできる学力を身につけさせる。
 - ア 教材や指導法の工夫を図り、基礎的・基本的な学力を定着させるとともに、充実した言語活動を展開する。
 - イ 授業公開・研究授業・授業研究・授業アンケート等を活用し、積極的に授業改善を図る。
 - ウ 外部から専門家等を招き講義・講演や体験的授業を積極的に展開するとともに、授業研究を行う。
 - エ 学校図書館を活用し、生徒の読書習慣を確立する。
 - *授業アンケートにおける「興味・関心をもつことができた」では継続して80%以上を維持するよう努める。また、図書館活用月間や読書週間を設定し、調べ学習等図書室の活用した授業の展開回数を50回以上とする。
- 2 基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成
 - (1) 社会人として自立し、社会の一員として生きていけるよう基本的な生活習慣と規範意識を身につけさせる。
 - ア あらゆる教育活動において規範意識の醸成を図り、中学校との連携を強め、きめ細かい温かみのある生徒指導を徹底する。
 - イ 基本的な生活習慣が確立できるように、あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導を徹底する。
 - ウ 社会の一員として生きていけるよう長期休暇や「総合的な学習の時間」・LHR等を活用し、キャリア教育や志学を効果的に展開する。
 - *新入生の2学期における生徒一人当たりの欠席数を1学期と比較して10%減にする。また、3年生の希望進路実現率は前年度に引き続き100%をめざす。
- 3 健全な心身・人間関係力の育成
 - (1) 美しい学校環境、安全安心な学校づくりをとおして、生徒が健康で明朗に活動できる場を提供する。
 - ア 「ようこそ花と緑の西淀川高校へ」のイメージに合わせ校舎内外の環境美化をすすめ、健康教育に取組む。
 - イ 部活動への参加を促し部活動の活性化を図るとともに、生徒会を中心とした学校行事の充実により学校教育全体の活性化を図る。
 - *行事後のアンケートで「体育祭・文化祭・遠足などの行事は楽しい」を67%とする。
 - (2) 人間関係力を身につけさせ、コミュニケーション力育成のための取組を推進する。
 - ア 自らの気持ちをコントロールでき、自ら考え、判断し、行動する姿勢をはぐくみ、自尊感情を高め他者を理解しようとする心情を育てる。
 - *37期生における生徒向け学校教育自己診断(悩みなどを相談しやすい先生がいる)(平成26年度1年次59%)を卒業時の平成28年度には64%にする。
- 4 生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化
 - (1) 生徒・保護者と緊密な関係を築き、生徒への指導と支援を行う。また、保護者や卒業生、中学生や地域の方々の理解と支援を得るため、連携を深めるとともに広報活動の充実を図る。
 - ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により生徒の指導や支援に取組む。
 - イ 部活動や行事等での交流、出前授業や授業の相互見学などの実践により、中学校との相互連携を深める。
 - ウ 地域や中学生が参加できる行事を展開するとともに、地域での行事に積極的に参加し、地域との連携を強化する。
 - エ ホームページ等を活用してPR活動を積極的に行う。
 - *保護者向けメルマガの発信回数を年間40回以上とする。また、HPの年間アクセス数を15000回以上をめざす。
- 5 学校経営の効率化
 - (1) 再編整備に伴い有機的に連携して業務の圧縮を図れるよう、教科、分掌、委員会の再構築をおこなう。
 - (2) 教育活動や業務の効率化・ICT化を促進する。教職員の事務業務時間を減らし生徒と関わる時間を確保する。
 - (3) 複数の分掌や学年で作成・管理していた生徒情報について一元化を図り、教職員全員が情報を共有できる環境をつくる。
 - *教員数の減少に対応した組織改編を行い、分掌、委員会を統廃合し、30年度には分掌数を3とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>*実施方法 生徒には12月の期末考査最終日に実施し、ほぼ全員から回収した(89.1%:長欠者以外は殆回収)。保護者には12月2月中旬に回答用紙を封筒に入れ、生徒を介して配付・回収した(←昨年:35.4%→昨年:32.5%→今年:41.1%)。</p> <p>1.「学校へ行くのが楽しい」については 65%の生徒が楽しいと感じている。同じメンバーで比較すると3年生は10%上昇。2年生は7%下がっている。2年生になると数値が下がるのは例年の傾向。中だるみと考えられる。</p> <p>4.「授業はわかりやすい」については 80%の生徒がわかりやすい授業だと思っている。なお、この数値は昨年よりも9%も上昇。ここ5年間で最高。特に同じメンバーで比較すると3年生は昨年に比べて14%、2年生は5%の上昇。先生方の頑張りがうかがえる。</p> <p>12.「進路について考える学習がある」について(75.75%が肯定。4%の上昇) 昨年との比較で全体ではあまり変化は無い。ただし、2年生の数値が80%を超えたことは過去5年無い。2年生の「そう思う」は40%で3年生を上回る。15%の上昇である。例年3学期に実施する求人票の閲覧や進学相談シートの記入を2学期に実施したことがその理由と考えられる。</p>	<p>第1回学校協議会 6月27日(月) ・就職に関して、2年生のうちから生徒一人ひとりと面談を行い、丁寧に指導されていることが理解できた。 *まとめ 生徒募集が停止になったのは残念だが、今の生徒が卒業するまでしっかり教育活動を続けてもらいたい。</p> <p>第2回学校協議会 10月26日(水) ・30年度、先生の数が減っても、選択授業など今の教育環境が維持できるか心配だ。 *まとめ PTAの協力もいただいている。学校が最後の一人まで面倒を見るというのは変わらない。協議会としても協力できるところは協力していきたい。</p> <p>第3回学校協議会 2月6日(月) ・授業が分かりやすいと感じている生徒が多いのはなぜか。 ・トイレの美化について ・新校整備進捗状況について *まとめ あと2年間、最後まで生徒の指導をお願いします。</p>

府立西淀川高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進	(1)わかる授業の展開、社会で生き抜くことのできる学力 ア 教材の工夫を図り、基礎的・基本的な学力の定着 イ 授業公開・研究授業・授業アンケート等を活用した授業改善 ウ 外部専門家等による講義・講演・授業研究 エ 生徒の読書習慣の確立	ア・生徒の実態に応じたプリント教材を作成し、学び直しを含む基礎学力の充実を図る。 ・ICT等機器を活用した授業づくりを深化させる。 イ・6月・11月の授業公開、7月・12月の授業アンケート及び学校教育自己診断を活用し、授業改善を推進する。 ウ・学校外から教育関係者を招聘し授業研究に取り組む。また、人権、歴史、法律等の社会で必要な知識を学ぶための学校外講師による講演等を実施する。 エ・読書推進週間を設定、読書活動を推進する。	ア・生徒の授業アンケート「興味・関心が持つことができた」を82%（前年度79%）。 イ・生徒の授業アンケート「先生は生徒の意見や要望を聞いて、授業を工夫し改善している」を87%（前年度85%）。 ウ・外部専門家等を招聘して授業研究を3回以上。 エ・調べ学習等図書室の活用した授業回数を50回以上。	ア・第2回生徒の授業アンケート（12月実施）「興味・関心が持つことができた」は81%でほぼ目標達成。（○） イ・第2回生徒の授業アンケート（12月実施）先生は生徒の意見や要望を聞いて、授業を工夫し改善している」は85%で前年度と同数値となった。（○） ウ・和歌山大准教授により3回実施。（○） エ・調べ学習等図書室の活用した授業119回実施。（◎）
2 基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成	(1)基本的生活習慣の確立と規範意識の定着 ア 規範意識の醸成、中学校との連携強化し、きめ細かい温かみのある生徒指導の徹底 イ あいさつの励行、欠席・遅刻等の指導の徹底 ウ キャリア教育や志学の展開	ア・教育相談や生徒の発達といった広範な内容を含む生徒指導に係る職員研修を実施し、生徒とのかかわりを深める糧とする。 イ・毎朝、教員が交替で校門での登校指導の取組を行う。また、定期的に『遅刻0週間』指導を行うとともに、欠席・遅刻の多い生徒については家庭連絡を徹底し、保護者の指導を要請する。 ・4・9・1月を「あいさつ月間」とする。 ウ・3年間を俯瞰したキャリア教育の取組を推進し、仕事の意識を高め就業意欲をもたせるための取組を積極的に取入れ生徒の進路希望実現をめざす。	ア・生徒の実態や教職員のニーズ合わせた職員研修の実施年間3回以上。 イ・1年生の2学期の生徒一人当たりの欠席数が1学期に比べて10%減。 ウ・3年生の希望進路実現率100%維持。 ・2年生へのキャリア教育を強化するために、就職支援コーディネータによる個人面接を2年生全員へ実施。	ア・5月17日、GIDに係る研修(康淳氏)肯定100%。7月4日、心肺蘇生と色覚に係る研修(本校職員)肯定100%。9月23日自傷行為に係る研修(大塚紳士一郎氏)肯定100%。1月11日、児童虐待に係る研修(濱家敦子氏)肯定100%。職員研修4回実施。（◎） イ・1年生1学期の生徒一人当たりの欠席数9.9回1年生2学期の生徒一人当たりの欠席7.1回で28%減。（◎） ウ・希望進路実現89人中89名。希望進路実現率100%100%。 ・就職支援コーディネータによる個人面接を2年生全員へ実施。（○）
3 健全な心身・人間関係力の育成	(1) 美しい学校環境、安全安心な学校づくり ア 校舎内外の環境美化 イ 部活動活性化、学校行事の充実 (2) 人間関係力、コミュニケーション力育成 ア 自己コントロール、主体性の育成	(1) ア・校舎内外の清掃美化を徹底するとともに、「花と緑」がいっぱいという環境の中で優しい心をはぐくむ。 ・生徒の清掃ボランティアを支援する。 イ・リーダーを養成し生徒にとって楽しい学校生活を送るための学校行事を充実させる。 (2) ア・授業を中心としてあらゆる場面において自己を表現できるコミュニケーション力をつける取組（グループワークやプレゼンテーション）を行う。 ・いじめの未然防止のため、生徒の状況の細かい把握に努め、信頼関係を構築して生徒が教職員に相談しやすい環境を整える。	(1) ア・年間清掃活動日数を1700日以上。 イ・行事後のアンケートで「体育大会・文化祭・遠足などの行事は楽しい」を67%(前年度64%)。 (2)・3年生における学校教育自己診断「悩みなどを相談しやすい先生がいる」において、1年次の59%を64%に。	(1) ア・校内および学校周辺地域の清掃活動日数227日。（◎） イ・体育大会実施後のアンケートで肯定82%。文化祭実施後のアンケートで肯定74%。（◎） (2) ・37期生3年生における学校教育自己診断「悩みなどを相談しやすい先生がいる」において、1年次の59%が3年次では73%となった。養護教諭の職員室常駐制度や支援コーディネータを中心にした教育相談体制を充実させてきた成果といえる。（◎）
4 生徒・保護者・中学・地域と相互の「絆」の強化	(1)生徒・保護者と緊密な関係構築。広報活動の充実 ア 家庭連絡、保護者との連携 イ 中学校との相互連携 ウ 地域・中学生が参加できる行事展開、地域行事に参加 エ ホームページ、PR活動	ア・日常の面談・相談・電話等の連絡・家庭訪問・中学との連携等により生徒・保護者と緊密な関係を築く。 イ・周辺の小・中学校を中心に部活動や行事等での交流、出前授業や授業の相互見学などの実践により、校種をこえた相互連携をさらに深める。 ウ・さまざまな本校主催行事をさらに推進し、地域、中学生と連携を推進する。また、本校生徒がいろいろな地域行事に積極的に参加できるよう連携を強化する。 エ・広報活動に取組み、地域・中学校から本校の教育活動についての理解をえる。	ア・すべての新入生の出身中学への訪問を実施（遠距離等訪問が困難な学校は電話連絡する）。 イ・出前授業等交流・連携の延べ回数を維持(前年度5校)。 ウ・行事への地域・中学生の来校者総数を維持(前年度277名)。 エ・保護者向けメルマガを年間40回以上発信。 ・ホームページの年間アクセス数を15000回以上。	ア・入学段階で出身中学である府内57中学を訪問し情報交換実施。（○） イ・5校13回（新北野中、出来島保、出来島小、姫島保、淀中学）。（◎） ウ・2年目となる「西淀川高校スポーツフェスタ」を開催。野球、バスケットボール、卓球の3種目で、延べ324名の中学生選手が参加。このほか環境フェスタ等の行事で、本校への地域、中学生の来校者数322名、地域行事への生徒参加50名。（◎） エ・メールマガジン発信45回。ホームページアクセス19780回。（◎）
5 学校経営の効率化	(1)再編整備事業に伴い有機的に連携して業務の圧縮を図れるよう、教科、分掌、委員会の再構築をおこなう。	(1)・早期に再編整備対策委員会を立ち上げ、学校規模縮小に対応した組織体制構想を策定する。	ア・29年度、30年度の分掌、委員会等の組織体制計画を作成。	ア・再編整備対策委員会を立ち上げ、29、30年度を見通した分掌、委員会等の組織体制計画案を作成。11月に来年度は現在の5分掌を4分掌に統廃合することを決定。（○）